

小中一貫教育校の具体的な活動(例)

| | 具体的な活動 | メリット | デメリット | 課題克服のための手立て |
|-------------|--|---|-------------------------------------|--------------------------------|
| 子ども | 児童生徒合同の勉強会 | | 機会を作ることが困難 | 時間割の調整 地域との連携 |
| | 教科担任制を取り入れた授業 | 授業への理解と学習意欲の向上 学力向上 | — | — |
| | 9年間を見通したカリキュラムの実践 | | — | — |
| | 同じ校舎への通学 | 中1ギャップの緩和・不登校の減少 | 人間関係の固定化 | 異年齢間の交流(自浄作用) |
| | 顔なじみの先生の存在 | | 分離型の場合は困難 | 乗り入れ指導の充実 |
| | 小学校からの教科担任制 | 中1ギャップの緩和・不登校の減少・学力向上 | — | — |
| | 合同給食 | 中学進学への不安の緩和・年下への思いやり、年上へのあこがれの醸成 | 機会を作ることが困難 分離型の場合は困難 | 時間割の調整 テレビ会議 |
| | 合同で実施する学校行事 | | | |
| | 合同授業(総合的な学習の時間等) | | | カリキュラムの精選 テレビ会議 |
| | 異学年交流 | 上級生の自己肯定感の向上・上級生の規範意識の醸成・コミュニケーション能力の向上 | 小学校5・6年生のリーダーシップが育ちにくい 分離型の場合は困難 | 9年間の中に意図的にリーダー学年を設定する(4-3-2制等) |
| | 9年間一貫した児童・生徒指導 | 規範意識の向上・いじめ問題、不登校の減少 | — | — |
| 高学年の部活動への参加 | 中学進学への不安の緩和・年下への思いやり、年上へのあこがれの醸成 | 活動場所の確保・分離型の場合は困難 | — | |
| 教員 | クラブ・部活動等の小中合同化 | 小・中の互いの良さを取り入れる意識が高まる・指導力の向上 顧問を確保することができる。 | 分離型の場合は困難 必要な校庭や体育館でのスペース確保 | 活動日時の工夫 |
| | 小・中合同の職員室の設置 | 小・中教職員間で協力して指導にあたる意識の高揚 | | |
| | 小・中合同の校内・教材研究 | 小・中の互いの良さを取り入れる意識が高まる・指導力の向上 小・中学校の指導内容について教職員の理解が深まる | 小・中学校間の打ち合わせが増える | 校務分掌の見直し |
| | 小・中合同の年間指導計画の作成 | 小学校教員間で基礎学力保障の必要性に対する意識が高まる | | |
| | 教科担任制を取り入れた授業 | 小学校教諭の教材研究の量が減る | 中学校教諭の授業時数が増える | 校務分掌の見直し 部活動顧問の見直し |
| | 合同で実施する学校行事 | 小・中の互いの良さを取り入れる意識が高まる・指導力の向上 担当分掌の役割分担ができる。 | 分離型の場合は困難 必要な校庭や体育館でのスペース確保 | テレビ会議 |
| | 児童・生徒会活動の小中合同化 | | | |
| | 9年間を見通した個別の指導計画の作成 多くの教員による子どもへの関わり 小・中合同の校内・教材研究 小・中合同の年間指導計画の作成 | 特別な支援を要する児童・生徒へのきめ細かな指導が充実する | 小・中学校間の打ち合わせが増える 分離型の場合は困難 | 校務分掌の見直し テレビ会議 |
| 保護者 地域 | 9年間の関わりの中で理解が深まる環境 | 学校への満足度が高まる 学校との協働関係が強くなる 異校種に関わることで子ども理解が進み、不安が解消される | 9年間の関わりの中で、不信感が強まる可能性 | 教育委員会等、学校以外の機関の関わり強化 |
| | 小中合同のPTA活動 | 類似活動を削減できるため負担が軽減できる 幅広いアイデアを募ることができるため、個々の活動の幅が広がる。 | — | — |
| | 小中合同のコミュニティ・スクール | 学校との協働関係が強化され、コミュニティ・スクールの機能が充実する 保護者のネットワークの拡大 地域が育てたいと思う子ども像を学校と共有できる 9年間の子どもの育ちを理解し、地域の果たす役割を知ることができる これまで比較的少なかった中学生との交流が増え、スキルを活用して教育活動に関われる | — | — |